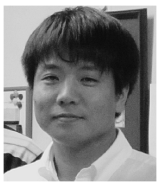
研究室紹介

長崎大学　環境科学部　大気環境植物学研究室

研究について：植物は生態系において生産者として私たち動物の生活を支えています。しかし、植物を取り巻く大気環境は、産業革命以降にもたらされた大気汚染などによって著しく変化しています。本研究室では、人間の生活基盤である植物を保護することを目的として、大気汚染や地球温暖化が植物に及ぼす影響とそのメカニズムを明らかにする研究をしています。

教員：山口真弘（助教）
略歴：2008年3月に東京農工大学大学院連合農学研究科を修了（博士(農学)）。同大学の研究員等を経て2014年4月から現職。



植物の育成・処理：植物育成用のチャンバーを用いて植物に大気汚染物質を暴露したり、気温上昇処理を施したりすることで、それらの植物に対する影響を調べています。実験期間中は植物の世話や成長測定を行いますが個体数も多いので時間がかかります。夏は暑くて日差しも強いので特に大変です（水分補給が欠かせません）。

収穫：植物の育成・処理が終わるといよいよ収穫です。個体数が多いのでサンプリング中は協力して作業を進めています。植物を切り分けて封筒に入れて乾燥機へ、といった単純作業がひたすら続くので、時折話しながら作業しています。根の重さを量るために泥まみれになって根を洗ったりもします（泥作業が好きな物好きも）。

野外調査：郊外の山に皆で行って、樹木の葉を採取して葉面に沈着した粒子状物質の分析もしています。

作業後のひと時：長崎銘菓カステラの食べ比べやみかんジュース飲み比べなどをしています（時々、飲み会も）。

研究発表：一年の締めくくりは卒論・修論発表です。植物の収穫後、分析が終わり次第、たくさん集めたデータを解析してポスターやプレゼンを作ります（パソコン相手にしばし大奮闘）。論文執筆や発表準備は大変ですが終わると達成感(?)。一年間、お疲れさまでした。